資料　3

令和８年度古賀市男女共同参画計画実施状況報告書（令和７年度事業）
効果的な取組方法への助言

1.（Ｐ１人権センター）男女共同参画セミナーの参加者が９割女性であったことなどから、より幅広い属性の人にメッセージが届くような工夫が必要と思われる。

2.（Ｐ２人権センター）主催者側は子連れでイベント等へ参加できる環境を整える必要がある。担当部署や組織体の垣根を越えて協力していくと良いと思う。垣根を越えての協力については基本目標Ⅲについての助言ともさせていただく。

3.（Ｐ８人権センター）話題性のある講演等は、早い時期から周知を行うとともに、人目に触れる工夫や各種団体との連携など、多様な手法を活用した集客が重要である。また、関係者の協力を得るためには、熱意や感謝の気持ちを持って取り組むことも大切である。

4.（Ｐ12 保育所） 包括的性教育では５歳児からの性教育が求められているので、そちらも参考にしてはどうか。

5.（Ｐ13 学校教育課）「いのちのノート」の内容は、定期的に見直しを行い、判断を誤る事のない様、授業等で活用され、大事にする形で継続されるとよいと思う。

6.（Ｐ16 保育所） 「男の子だから」「女の子だから」などの発言が子どもの個性の伸長を阻む弊害を保護者にお知らせする機会があればよいかと思う。

7.（Ｐ22 保育所）「男の子だから」「女の子だから」などの発言が子どもの個性の伸長を阻む弊害を教職員・保育士にお知らせする機会があればよいかと思う。

8.（基本目標Ⅰ）全体として、人権に関する取組を行ったことは分かるものの、男女共同参画に直接的に関わる内容が含まれているのか分からない記載が多い。各課に対して、この点が明瞭な報告を求めることで、今後の課題を議論しやすくなると思われる。

9.（Ｐ29 まちづくり推進課） 昨年度の隣組長の女性の数は増えてきてはいるが全体の 30.5%となっている。 実際のところ活動は妻（女性）であっても、建前上、世帯主の男性の名前を書く方もまだ多くおられ、本当の人数がわからない。年末、次年度の隣組長の名前を書く前に、会議で区長よりと書面で、活動する人の名前を書く様にするのはどうか。

10.（P29 まちづくり推進課）担い手不足解消対策としては、「那珂川市自治会女性役員参画推進補助金」を参考にされてはいかがか。予算設定を伴うので大変かとは思うが、効果はあるようで、大野城市なども倣い始めたようである。

11.（P29 まちづくり推進課）（P30 生涯学習推進課）（P31 文化課）各種役職等の女性比率については、令和5～7年度で比較できるよう記されている項目が多いが、もう少し長いスパンでのトレンドも考慮して検討できるとよいと思われる。

12.（P35 商工政策課）研修テーマのマンネリ化が原因と思われる研修参加者数の伸び悩みみは、今までとは全く違う資料等を参考に取り入れてはどうかと思う。

13.（P39 人権センター）具体的施策 22 で掲載している「女性ＩＴ人材サポート」は 21 に記載したほうがよいと思われる。

14.（P63 商工政策課）「古賀のわが社自慢」という名称が応募のハードルとなっている可能性があるため、より気軽に応募できる印象の名称を検討してはどうか。

15.（P67 生涯学習推進課）高齢者向け講座で男女が共に気がねなく参加する為には、あえて、男女をわけた方がいい場合もあると思う。特に美容関連は Men's 部門があってもいいと思う。

16.（P67 生涯学習推進課）「性別を制限せずに募集した」というだけでは、男女共同参画の事業とは言えないと感じる。基本目標Ⅲの多くの事業に言えることだが、市の事業において性別による差別的な扱いをしないことは当然であり、男女共同参画との関わりが分かる記載が望まれる。

17.（P72 生涯学習推進課）ウォーキング大会等の様子を広報こが等で取り上げ、参加者が他にどのような健康づくりを行っているか取材するなど、市の PR に活かしてはどうか。

18.（P90 人権センター）「女性に対する暴力をなくす運動」期間をはじめ、年間を通じて、横断幕やのぼり旗、看板、ポスター等、目につきやすい場所で DV やハラスメント防止の啓発を行い、加害者や加害の自覚がない人が自分ごとと感じるようなメッセージ等で、自らの行為を見つめ直すきっかけとなる取組を進めてほしい。

19.（P90 人権センター）（P91 学校教育課）中学校や大学でのＤＶに係る講座など、現在の取り組みを継続していただきたい。

20. （P93 子ども家庭センター）こが女性ホットラインの相談カードが、必要としている方に届くことを願う。駅や商業施設のトイレへの配置などが進んでいくとよいと思う。

21. （P103 子ども家庭センター）中高生を対象とした望まない妊娠対策や相談窓口の情報提供について、市単独での取組が難しい場合でも、福岡県の相談窓口を紹介するなど、相談先の周知を進めてほしい。

22. （基本目標Ⅴ）明るく、楽しく、温かい雰囲気の中で、皆が歩み寄り、多様性への理解が深まるとよい。毎年同じではマンネリ化してくるため、少しでも新しい変化を取り入れ、失敗を恐れず、アイデアがあればまずはやってみてはどうか。

23. （基本目標Ⅴ）中高年層に向けての啓発にも力を入れていただきたい。